



幕末に伝わり 受け継がれてきた 北辰一刀流

問合せ▶歴史文化財課(☎306-8132)

斉昭がもたらした 新しい流派

江戸時代後期。一人の剣士が生み出した剣術流派が、一世を風靡^{ふうび}していた。剣術家・千葉周作^{ちばしゅうさく}成政が一代で作り上げたこの流派は、やがて幕末を代表する流派となる。

その名は「北辰一刀流」。

全国で累計3千人以上の門下生を誇ったといわれ、その中には、坂本龍馬など、幕末に活躍した志士もいた。

そのころ、水戸藩では徳川斉昭が第9代藩主となり、藩政改革を進めていた。斉昭は水戸藩で学ぶ武道についても改革を施し、さまざまな流派の長所を取り入れるため、新しい剣術流派も積極的に藩士に学ばせようとした。その一つとして「北辰一刀流」を採用すべく、1835(天保6)年、斉昭は創始者である周作を水戸に呼び、その剣技を披露させ

た。これをきっかけに、周作は水戸藩に仕えるようになり、1841(天保12)年に新設された弘道館で剣術の指南にあたる。そうして、北辰一刀流は、多くの水戸藩士が学ぶ武道となった。

しかし、水戸の武道は時代の波に大きくのまれていくことになる。

一子相伝で つなぎ続けた

明治維新により、水戸藩と武士身分は廃止。弘道館も、1868(明治元)年に起きた水戸藩の内紛により多くが焼けてしまい、学校としての機能を失った。ここで教えられていたさまざまな武道がよりどころを失い、その多くが衰退。新しい時代は、武道を取り残して進んでいった。

そのような状況の中、一人の人物が立ち上がる。水

戸藩の剣士、小澤寅吉^{こざわとらきち}政方である。若いうちから頭角をあらわし、弘道館で剣術指南役を務めていた寅吉は、1874(明治7)年、自宅の敷地内に「水戸東武館」を創設。剣術の振興、そして剣術の習得をとおした人材の育成に奔走した。

そして、北辰一刀流の精髓である「組太刀(二人一組で相対して行う型稽古)」を、小澤家の跡取りに授け、以降、北辰一刀流は一子相伝で受け継がれていった。

脈々と続いた北辰一刀流だったが、太平洋戦争時の水戸空襲により道場が焼失。さらに、戦後のGHQによる占領時には武道が禁止されるなど、継承への逆風は強かった。

時は流れ、平成。継承が途切れかけたこの時代に、水戸に根付いた伝統を守るため立ち上がり、時代の波に屈することなく奮闘した人たちがいた。

伝統を守り

未来へつなぐ

伝統の完全復活に 心血を注ぐ

途絶えかけていた北辰一刀流の伝統。再興のために奔走したのは、水戸東武館八代目館長の高山陽好さん。警察官を退職した2004（平成16）年から、北辰一刀流の復活を志しました。「以前から剣道師範として東武館で指導をしていましたが、水戸に受け継がれてきた北辰一刀流を絶やすことなくつないでいこうという機運が、東武館の指導者たちの間で高まったのです」と語る高山さん。そうして、小澤智七代目館長（1938〜2024年）をはじめ有志が集まり、組太刀の研究が始まりました。

「まず参考にしたのは、旧水戸藩士が千葉周作から話を聞いて作成した著書『剣法秘訣』。ここには、組太刀の型、全65本の動きや北辰一刀流の極意が解説されていました。しかし、この本が執筆されたのは大正時代初期。文章そのものを正確に理解することが難しいうえに、そこに込められた意図をくみ取り、身体の動きに反映させるには大

変な時間と労力を要しました。そんなとき、小澤武四代目館長（1906〜1985年）が残していたビデオテープが見つかり、それは、1本目から18本目までの型の演武が収められた貴重な資料だったんです。私たちは、そこに記録された一つ一つの動きや間、技の意味を丁寧に読み解き、失われかけていた型を、自らの体に刻み込むように再現していきました」。

研究が進んでも、高山さんたちの探求心が止まることはありませんでした。自分たちで65本の型すべてを再現しようと、活動はさらに熱を帯びます。四代目館長が『剣法秘訣』を独自に解説した資料も見つかり、伝統の復活へ大きく前進したのです。ときには、研究が



水戸東武館八代目館長
剣道範士八段 高山陽好さん

Interview

高山さんとともに北辰一刀流の再現に尽力



水戸東武館師範
剣道教士七段
居合道教士七段

うえだ ただお
上田 忠夫さん

残された数少ない資料は読み解くことすら難しく、実際の動きに落とし込むまでにとても苦労したのを覚えています。それでもなんとかヒントを探し、稽古を重ね、そして演武として形になった瞬間は本当に嬉しかったですね。2023(令和5)年に水戸でG7サミットの会合が開催された際には、海外の方々にも北辰一刀流を披露でき、感動してもらえたことが今でも印象に残っています。

今は特に、中学生たちが北辰一刀流に興味を持ち、稽古に来てくれていることに喜びを感じています。技だけでなく、大切に受け継がれてきた武道の精神を学び、次の世代、そのまた次の世代へとつないでいってほしいと願っています。



「水戸の梅まつり」での演武(弘道館)

行き詰まることもありましたが、そんなときは、北辰一刀流の起源にさかのぼって調べました。「北辰一刀流のもととなった流派の師範のもとへ行って話を聞いたり、その道場の合宿に参加したりして、北辰一刀流に脈々と受け継がれているものは何か、研究していきたい」と、当時を振り返ります。

こうして、65本のすべての型の再現が完了。高山さんたちが活動を始めてから、実に10年の歳月が流れていました。

守った伝統を つなぎ続ける

高山さんは82歳になった現在も、剣道の指導のほか、毎週土曜日に「古武道研究会」を開き、北辰一刀流の指導をしています。それだけでなく、魅力や教えを後世に残せるよう、技の解説動画をインターネットで公開したり、さまざまなところで演武を披露したりしています。それは、多くの人にこの武道の魅力や価値を感じてもらい、受け継いでいってほしい、という強い思いがあるからこそ。「150年以上も前にこの地に伝わった伝統文化を守れたことが、何よりもうれしい。北辰一刀流に込められた意志と技術が途絶えないよう、これからも魅力を伝え、後世につないでくれる人が増えるような活動を続けていきたいですね」。

水戸に息づく伝統の武道を守り、それを後世につなぐ活動が続ける高山さん。水戸東武館には今日も思いを込めて指導する高山さんの声が響いている。

水戸東武館 入館生を募集しています

問合せ▶水戸東武館(☎221-4729)



小・中学生や初心者向けなど、コースに分かれた剣道の稽古のほか、中学生以上を対象とした、北辰一刀流の指導も行っています。

見学や体験を希望する場合は、電話またはメール(✉tobukan4729@outlook.jp)でお問い合わせください。

◀中学生の部
(毎週火曜日に開催)

古武道研究会の皆さん▶
(毎週土曜日に開催)



北辰一刀流 組太刀の基本

水戸東武館公式YouTubeチャンネルでは、全組太刀の型や演武の様子を見ることができます。



組太刀は、太刀組43本、小太刀組5本、相小太刀組6本、刃引組11本に分類される、計65本の型が存在する。真剣を用いる刃引組以外は、お互いに木刀を使用し、技術の高い方が受太刀となって打突を受ける。打突が非常に激しいため、受太刀は「鬼籠手」という大きな籠手を両腕に装着する。

北辰一刀流は、「一ツ勝」の型に代表されるように、いかなる敵に対しても果敢に攻めることで敵の太刀を切り落とし、その起こり(相手が技を出す瞬間の動き)を打つことを信条としており、いずれの型も非常に素早い動きが必要である。

鬼籠手

相手が本気で打ち込めるよう、分厚く大きく作られている。



太刀組

互いに太刀で行う基本の型。一刀流の基礎と極意を学ぶ。



小太刀組

太刀に対し長さが不利な小太刀で、懐へ果敢に踏み込む技術を磨く。



相小太刀組

小太刀同士で行う実践的な型。室内や乱戦を想定した動きが必要。



刃引組

真剣の太刀を使う。極度の緊張感の中、自らの技と精神を極める。

一ツ勝の流れ

最も代表的な型、「一ツ勝」。切り込んでくる相手に対し、その刀を切り落として攻撃をする。北辰一刀流の基本であり、信条が詰まっている型である。



① 相手(左)が切りかかってくる瞬間を察知して、その刀を切り落とす。



② 相手の刀を切り落とした隙に、喉をめがけて突く。



③ 相手が刀を振りかぶり籠手が上がったところを狙い、その左手を打つ。

指定文化財

水戸東武館(道場・正門附堀)や北辰一刀流などは、市の指定文化財に指定されています。市内には、国や県、市の指定文化財が204件あり、重点的に保存・活用されています。



日本遺産

斉昭が創設した旧弘道館、常磐公園(偕楽園)は、日本遺産「近世日本の教育遺産群—学ぶ心・礼節の本源—」の構成文化財となっています。



近世日本の教育遺産群サポーター 募集中

弘道館や偕楽園をはじめとする「近世日本の教育遺産群」を多くの人に知ってもらうため、関連イベントのお手伝いなどをするサポーターを募集します。サポーターへの歴史講座なども実施します。

